

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	65人	算数	65人	理科	65人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	85人	算数	85人	理科	85人
------	----	-----	----	-----	----	-----

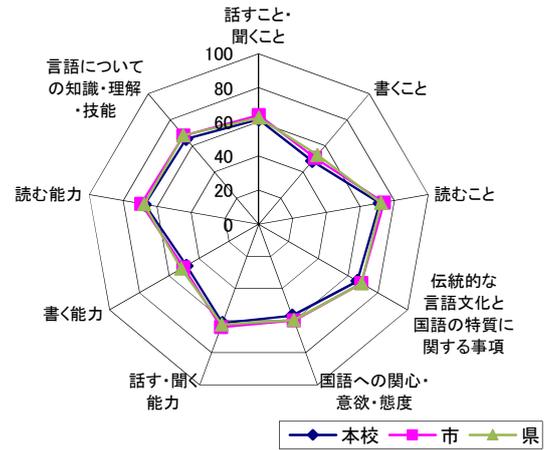
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	61.5	64.0	62.5
	書くこと	48.5	50.9	53.1
	読むこと	71.5	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.3	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	56.9	59.9	59.7
	話す・聞く能力	61.5	64.0	62.5
	書く能力	48.5	50.4	52.0
	読む能力	67.3	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	65.5	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

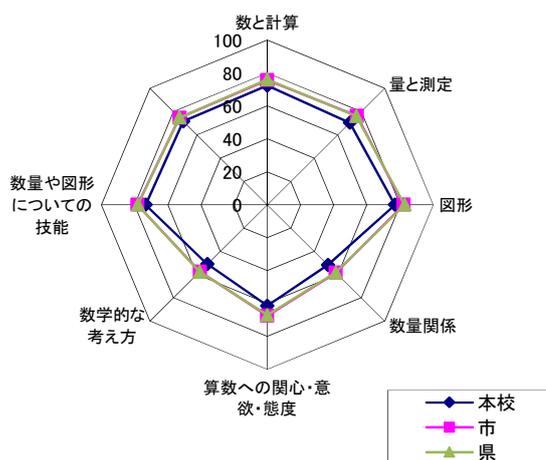
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○大事なことを聞き取ろうとする意欲はあり、正答率は95%以上だった。</p> <p>●話し合いにおいて、賛成か反対か自分の意見とその理由を話すことについて、分かりやすく話せるように書くことができない児童が、30%近くいる。そのうち、類型外誤答の児童が20%程度いる。</p>	<p>●課題に対する自分の考えを常にもつことや、自分と異なる考えに気付くことができるよう、国語の時間に限らず、話し合い活動を充実させていく。</p> <p>●気付いたり分かったりしたことを表現する活動に、意識して取り組ませる。</p>
書くこと	<p>●作文の問題では、30.8%が無回答である。指定された長さで文章を書く問題では、県の平均を5.6ポイント、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く問題では、7.1ポイント下回っている。また2段落構成で文章を書く問題と理由や事例を挙げて文章を書く問題では、県の正答率と同程度である。</p>	<p>●作文の基本的な文章構成を理解できるように、繰り返し指導する。</p> <p>●この作文では何を書くのかということを確認し、いつも中心の話題は何かを意識させて文章を書かせる。</p> <p>●読み手に伝わる文章を書く活動を、継続的に続ける。</p> <p>●作文指導や日記指導など、様々な機会をとらえ、正しい表記の仕方を指導する。</p>
読むこと	<p>○物語文の場面の様子を読み取る問題では、県の平均を5.9ポイント上回っている。</p> <p>●説明文の段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取る問題では、正答率が5割以下である。</p>	<p>●登場人物の心情を叙述に即して読むことを指導する。</p> <p>●文章の要点や中心となる語や文に注意しながら、内容を正確に読み取る指導を、繰り返し行う。</p> <p>●要点や自分の考えを、限られた文字数で書くことを経験させる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の読み書きの問題は、県や市と同等の正答率だった。</p> <p>●国語辞典の使い方の問題では、県の平均を8.5ポイント下回っている。</p> <p>●文の構成では、主語と述語の関係を理解できていない児童が多い。</p>	<p>●繰り返し漢字の練習を行うとともに、ミニテスト等を取り入れ確実な定着を図る。また、文章の中で使用できるようにする。</p> <p>●ローマ字は、国語の授業に限らず、パソコンを使用して調べ学習をする時間などを通して、実際に活用しながら繰り返し指導し、定着を図りたい。</p> <p>●分からない言葉の意味をすぐに調べられるような環境を整備し、国語辞典に慣れ親しませる。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.5	75.8	76.1
	量と測定	70.5	76.5	76.0
	図形	76.9	82.1	82.7
	数量関係	51.7	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	61.3	67.4	67.0
	数学的な考え方	51.0	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	73.4	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	71.7	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

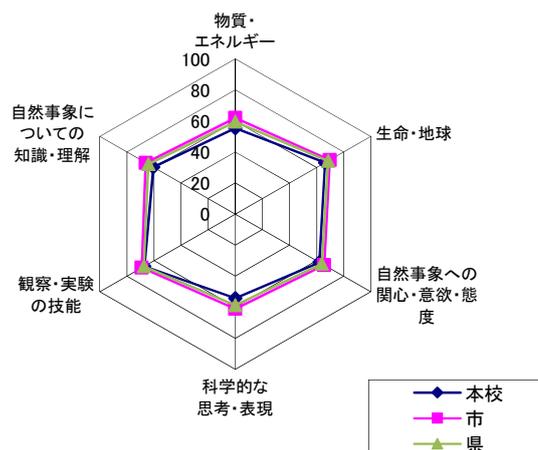
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、市の平均を3.3ポイント下回っている。 ○数の相対的な大きさの問題では、県の平均を10.9ポイント上回った。 ○分数の数直線上での表し方のついでの問題では、県の平均を5.9ポイント上回った。 ●文章問題を解くための除法の式を選ぶ問題では、県の平均を12.6ポイント下回った。 ●2位数×2位数の工夫した計算の仕方を説明する問題では、市の平均を8.5ポイント下回った。無回答率は18.5%であった。 ●余りを切り上げて処理する除法の計算やその理由を説明する問題では、市の平均を11.3ポイント下回った。無回答率は15.4%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎問題については、ドリル、プリント、フォローアップ問題などを活用して復習を図る。 ・活用問題については、基礎的な理解を図った上で、問題を解く手順を押さえながら解く指導を行う。文章を確実に読み取る力の育成も図っていく。 ・ペア学習やグループ活動で、一人一人が確実に考えを伝え合い、課題に主体的に取り組ませることで、無回答を減らしていく。 ・基礎基本の計算については、理解に個人差があるので、個別に指導を行う。 ・TTや習熟度別学習を生かし計算の能力を定着させ、様々な問題で応用できる力を伸ばしていく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、市の平均を6ポイント下回っている。 ○身近にあるものの重さの単位についての問題では、県の平均を2.2ポイント上回った。 ●2つの時刻を比較して、その間の時刻を求める問題では、県の平均を4.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題を教材として取り上げ、学んだことを実際の事実や生活と結びつける力を付けさせる。 ・時計については、二つの時刻の間の時間が正確に答えられるように復習する。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、市の平均を5.2ポイント下回っている。 ○円の半径を求める問題では、県の平均とほぼ同じだった。 ●円の直径を求める問題や正三角形を作図する問題では、県の平均を8.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書や実物投影機などを利用して、作図の仕方を具体的に提示し、丁寧に指導する。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、市の平均を6.7ポイント下回っている。 ○数量関係を求める問題では、市の平均とほぼ同等であった。 ●除法の式を立式し答える問題では、無回答率が14.6%と高かった。 ●式が表している意味を読み取り、適した答えを選ぶ問題は、市の平均を8.5ポイント下回った。 ●棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフをかくことができない理由を説明する問題では、校内正答率が18.5%と低かった。最後の問題だったので無回答率も26.2%と高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業の中で、数量関係を線分図に書き表す学習を多く取り入れ、線分図の意義を理解させる。 ・式が表している意味を読み取るために、問題文作りを行う。 ・ペア学習やグループ活動で、一人一人が確実に考えを伝え合い、課題に主体的に取り組ませることで、無回答を減らしていく。 ・TTや習熟度別学習を生かし、様々な問題で応用できる力を伸ばしていく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.4	61.9	59.4
	生命・地球	66.2	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.1	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	54.3	61.0	58.8
	観察・実験の技能	67.1	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	60.5	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が県平均より5ポイント下回っていた大問は、風やゴムのはたらき、磁石の性質である。 ●風やゴムのはたらきの小問2「2つのおもちゃを比較して、ゴムのはたらきについて推測する」問題の正答率が県、市平均より18.7ポイント下回っている。ゴムのはたらきについて理解が十分でないことが考えられる。 ●磁石の性質の小問1「磁石の極の性質が分かる」問題では、正答率が13.6ポイント下回っている。極の性質について十分に定着が図られていないことが伺える。 ○電気の通り道の名称を問う問題は、県平均を8.5ポイント上回っている。実験などの体験活動に楽しさや驚きがあり、よく記憶していたと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に正答率が低いので、3年生の復習問題を実施し、定着を図る。 ・実験に十分に取り組めた内容についての正答率は高かった。今後も幅広い実験の活動を中心に学習が進められるよう、単元の展開の工夫を図る。 ・実験の考察を苦手としていることが分かった。実験で分かったことをもとに、どんなことが考えられるのか話し合う活動に重点を置いて授業を行う。 ・家庭学習においても、理科をテーマにした自主学習に取り組むよう啓発する。自主学習の成果を称賛して広めるとともに、家庭へ学習状況の周知や協力をお願いする。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が県平均より5ポイント以上下回っている大問は、身近な自然の観察である ●身近な自然の観察の小問1「観察カードからアブラナとタンポポの違いを読み取る」問題の正答率が11.7ポイント、小問2「ダンゴムシのすみかが分かる」問題の正答率が13.7ポイント下回っている。 ●昆虫の体のつくりの小問1「昆虫の体のつくりが分かる」問題では、正答率が11.6ポイント下回っている。 ○昆虫の体のつくりの小問2「トンボとクモが昆虫か見分ける問題」は、県平均を5.1ポイント上回っている。生物の観察に楽しさや驚きがあり、よく記憶していたと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に正答率が低いので、3年生の復習問題を実施し、定着を図る。 ・温度計や虫眼鏡の使い方など、十分に観察・実験に取り組めた内容の正答率が高い。十分に観察や実験を行うことで、実感を伴った理解につなげていきたい。 ・観察したことをノートや記録カードに絵や文などを使って自分の言葉で表現する活動を今後も繰り返し行っていく。 ・自然の事物・現象についての説明や理由の考察を苦手としている。観察で分かったことをもとに、どんなことが考えられるのか話し合う活動に重点を置いて授業を行う。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は自分のためになっている」の質問では、県と比較して11ポイント上回り、市と比較しても9ポイント以上上回っている。「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問では、県と比較して5ポイント上回り、市と比較しても2ポイント以上上回っている。「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」の質問では、県と比較して11ポイント上回り、市と比較しても7ポイント以上上回っている。「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」では、肯定的な回答が70%を超え、県や市と比較しても10ポイント近く上回り、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の質問でも、県や市よりも7ポイント以上上回った。さらに、「先生は学習のことについてほめてくれる」の肯定的回答は85%を超え、県と比較して8ポイント上回り、市と比較しても3ポイント以上上回っている。「時間を上手に使うことを、心がけている」の質問では、肯定的な意見が県・市と比較して4ポイント上回った。「人と話すことは楽しい」の質問では、肯定的な回答が90%を超え、「はい」という回答に関しては県や市よりも5ポイント上回っている。

○学校での授業について、肯定的にとらえており、問題に対して興味関心を多くの児童が持っていることが分かる。また、難しい問題に対して「解いてみたい」という意欲が高いことが分かる。このことから今後も、児童の学習意欲を高める授業づくりをし、学級全体として授業に対して雰囲気の良い学級づくりに努めていくことが大切であると考えられる。さらに、教師がほめる機会を今後も継続し集団の中で自己肯定感を高めるとともに学級集団における価値を見いだせる支援をしたい。

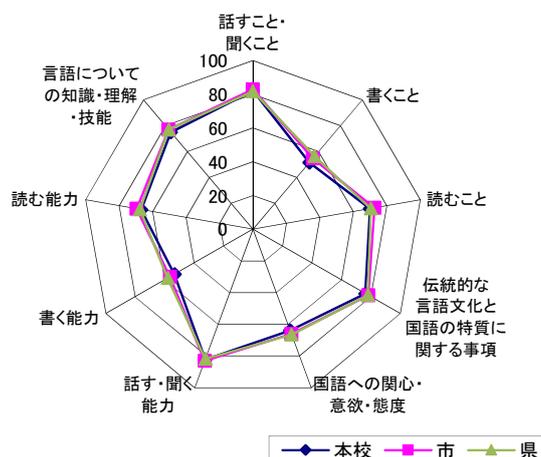
●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問は、県や市の肯定的回答を10ポイント以上下回った。また、「家で、学校の宿題をしている」の質問では、肯定的な回答が95%を超えているものの、「はい」と答えた割合は3ポイント下回り、「家で、学校の授業の予習をしている」の質問では、肯定的な回答が県や市と比較して15ポイント下回った。「家で、学校の授業の復習をしている」の質問では、肯定的な回答が県や市と比較して20ポイント下回った。さらに、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の質問では、肯定的な回答が県や市と比較して、15ポイントから20ポイント下回っていた。

●家庭での学習に関して、肯定的回答がとても低い。児童が、学校の授業をその1時間で完結させてしまい、予習や復習の大切さに気付いていないということが考えられる。授業を含めた学習環境に課題がある可能性がある。児童が授業内容に見通しをもち、予習—授業—復習のパターンの繰り返しができる充実した授業を展開することが必要である。児童が自分から授業に参加できるように、ペアやグループ学習を取り入れて、充実した学び合いの場を作りたい。家庭学習では、宿題を通して、単元の予習復習を促すとともに、自主学習のやり方などについても、改めて学校での指導が必要である。これらにより、基礎基本の定着を図り、「できる」という自信をつけたい。発表への肯定的回答が高いことから、解いた問題の説明をする機会を増やし、称賛しながらクラス全体で学習の定着の底上げを図りたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.2	82.9	81.8
	書くこと	51.6	54.8	56.5
	読むこと	69.9	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.3	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	63.9	66.0	66.4
	話す・聞く能力	82.2	82.9	81.8
	書く能力	53.3	56.3	57.9
	読む能力	66.8	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	75.1	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

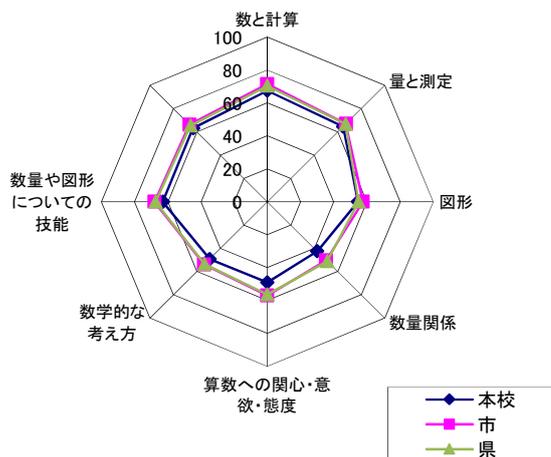
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○正答率は82.2%で、県の平均より0.4ポイント上回っている。 ○話の中心に気を付けて聞き取る設問は、県の平均を2.3ポイント上回っている。 ●話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話す設問、司会者の役割を理解し進行する設問は正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して学級活動や各教科の学習を通して小集団の話し合い活動を積極的に取り入れ、輪番制で司会を行うことで役割や進行の理解を深めたり、友達の考えを整理して聞いたりすることができるようにする。 ・友達の考えを聞くときに、大切な部分のメモを取ることを指導することで、考えの共通点や相違点に気付き、自分の考えをまとめたり話したりすることができるようにする。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は51.6%で、県の平均より4.9ポイント、市の平均より3.2ポイント下回っている。 ●指定された長さで文章を書く設問では、県平均を9ポイント下回っている。 ●他の領域の無回答率と比べて書く領域については、無回答の割合が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報から文章を構成していけるよう、文章の要約や調べ学習での情報の精選の仕方を指導する。 ・国語で学んだ書き方のポイントを、他教科のレポートやまとめなどで生かすことができるよう指導する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は69.9%で、県の平均より0.6ポイント、市の平均より2.7ポイント下回っている。 ○段落のまとまりを理解して文章の内容を的確に読み取る設問は、県の平均より、1.1ポイント上回っている。 ○場面の様子を読み取る設問も県の平均より1.0ポイント上回っている。 ●文章の内容を的確に読み取る設問は、県の平均より8.6ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書量の個人差が大きく、正答率の低さや児童の学力差に影響していると考えられる。朝の活動で、読書の時間を確保したり図書室の利用を推進したりし、学年の発達段階に合わせた内容の本が読めるように指導する。 ・物語文の場面の読み取りはよくできている。一方、説明文を読み取る力が不足しているため、今後説明文では、段落同士のつながりを意識して読むことができるよう継続的に指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は76.3%で、県の平均より1.8ポイント、市の平均より2.1ポイント下回っている。 ○漢字を書く問題では、県の平均より、7.6ポイント上回っている。 ●文の構成(連体修飾語)について理解しているかという設問では、県の平均より7.1ポイント下回っている。 ●漢字辞典の使い方の設問では、県平均より7.6ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字練習をしたり、ミニテストなどを使ったりして、引き続き漢字の定着を図っていくよう指導する。 ・分からない漢字や言葉の意味等は辞書を進んで活用し、国語辞典や漢字辞典に慣れ親しませる。 ・朝の学習や宿題等の学習を通して文法の学習の定着を図るよう指導する。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.5	71.5	70.4
	量と測定	64.7	67.0	66.9
	図形	54.6	57.6	55.0
	数量関係	42.5	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	49.0	57.0	56.3
	数学的な考え方	49.1	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	63.0	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	63.3	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

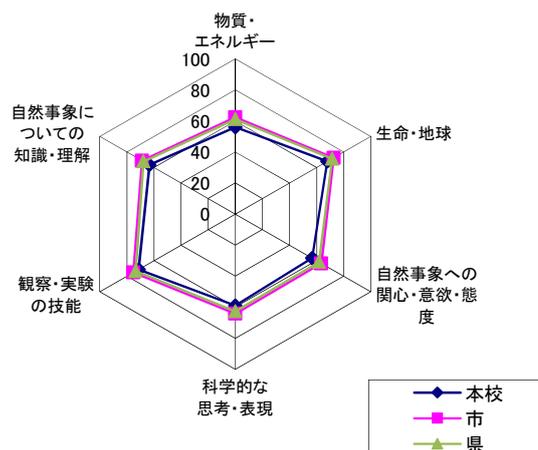
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は67.5%で、市の平均を4ポイント下回っている。 ○計算の復習問題では市の平均を2ポイント上回っている。 ○四捨五入をして上から2桁の概数にする問題と概数に対応する数の範囲を求める問題では県の平均を3.5ポイント、1.4ポイントそれぞれ上回っている。 ●大きな数の十億の位の数字を答える問題では県の平均を11.9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生までの基礎的な計算については理解しているが、計算の難易度が上がるにつれて正答率が下がる傾向にある。 ・算数的用語を十分に理解をさせ、計算の手順を繰り返し確認するとともに、今後もTTや習熟度別学習を生かし計算の能力を定着させ、様々な問題で応用できる力を伸ばしていきたい。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は64.7%で、市の平均を2.3ポイント下回っている。 ○180度より大きい角を求める問題では、県正答率より6ポイント上回っている。 ●身近にあるもののおよその面積を求める問題では、県の平均を9ポイント下回っている。 ●複合図形で、面積の求め方の式を選択する問題では県の平均を7.7ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な面積の求め方は理解しているので、花壇の面積や机の面積を自分で測るなど具体物による操作活動を取り入れていきたい。 ・複合図形では自力解決だけでなく、ペア学習やグループ活動等で互いに求め方を説明し合い、正しいものを見つけ出す活動などを通して、学びを深めさせていきたい。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は54.6%で、市の平均より3ポイント下回っている。 ○四角形の対角線を引いて対角線が垂直なものを選択する問題では、県の平均を14.5ポイント上回っている。 ○直方体のある辺に垂直な辺を求める問題では、県の平均を1ポイント上回っている。 ●ひし形の作図では、県の平均を11.8ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作図の仕方を指導する際には、図形の性質を確認することで理解が深まるようにする。また分度器やコンパスなどを正しく使うことができるよう用具の扱いについても繰り返し行う。ペア学習を取り入れ、お互いに説明しながら作図する活動を行うことで、作図の仕方について理解を深めさせていく。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は42.5%で、7.7ポイント下回っている。 ●折れ線グラフと表の問題では、市や県の平均を下回っており、無回答が約30%と高い。 ○ともなって変わる2つの数量の一方の値からもう一方の値を求める問題では、おおむね県の平均と同じである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの式に表すことにより、数量の関係を簡潔に表すことができることに気付かせ、四則計算を混合させたり、かっこを用いたりして一つの式に表す課題に取り組ませる。 ・グラフの読み取りのポイントは、何を表している表であるかを捉えさせ、読み取りたい事柄を明らかにしていくことであることを、練習問題で指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.9	62.4	61.1
	生命・地球	67.9	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	56.7	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	58.9	64.1	62.6
	観察・実験の技能	71.3	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	63.4	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>●空気のあたまり方の問題については、正答率は県平均より13.7ポイント下回っている。電流の問題については、正答率は県平均より10.9ポイント下回っている。2つの結果より、実験と結果を結び付けて理解していないことが分かる。</p> <p>●水が氷になるときの体積変化について説明する問題については、正答率が県平均より12.3ポイント下回っている。水が氷になるときに体積が増えることを理解していないと考えられる。</p> <p>○実験の結果から金属の体積変化について推測する問題は、県平均より4.8ポイント上回っている。</p>	<p>・物質・エネルギーの領域を指導するに当たっては、めあてを明確にし、仮説を立てて実験を行い、結果をまとめ、考察をするという学習の展開を大切に指導することで、科学的な思考力を高めていくようにする。その中でも、仮説と結果がどのように結びついていくのかに重点を置くことで、暗記するのではなく事象として理解できるよう指導する。また、結果や考察を言語化することも丁寧に指導し、理解と定着を図っていく。</p> <p>・物質・エネルギーの領域では、身近に体感できるものが多くあるので、身近な生活での事象を想起させながら体感させる指導をする。</p> <p>・全般的に、県平均を大きく下回る問題が多いため、4年生の復習問題を実施する。</p>
生命・地球	<p>●半月の動き方の問題については、正答率は県平均より19.3ポイント下回っている。筋肉の役割についての問題については、県平均を9.7ポイント下回っている。示された方位から他の方位を推測する問題については県平均を6.1ポイント下回っている。天体の動きや体の部位の役割や2つ以上のものを関連させて考えるなどの思考力が課題であると考えられる。</p> <p>○1年間の動物や植物の様子に関する問題は、県平均をそれぞれ5ポイント、6.4ポイント上回っている。</p>	<p>・全般的に、県平均を大きく下回る問題が多いため、4年生の復習問題を実施する。</p> <p>・観察や実験を重視するとともに、インターネットやDVDなどの映像資料を活用して、具体的なイメージが持てるようにし、知識の定着を図っていくようにする。</p> <p>・天候や天体についての正答率を高めるために、身近な内容として捉えるための教材教具の工夫を図り、実感を伴った理解ができるよう指導する。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は学習のことについてほめてくれる」の質問では、市より15ポイント、県より21ポイント以上も上回っている。
 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っってクラスの決まりなどを決めていていると思う」等の、話し合いや発表についての質問では、「はい」と答えた割合が7ポイント以上も、市や県を上回った。
 「自分の良さを人のために生かしたい」「自分もっている能力を十分に発揮したい」「将来の夢や目標もっている」の質問に対しても、「はい」と答えた割合が市や県と比べて4ポイント以上高かった。
 学校での授業について、肯定的にとらえている。自分の考えを説明したりペアやグループで話し合ったりする活動を効果的に取り入れる授業づくりを工夫している成果が表れている。さらに、教師がほめる機会の設定を今後も継続し、集団の中で自己肯定感を高めるとともに学級集団における価値を見いだせる支援をしたい。

●「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は49.5%で、市と比べると14%、県と比べると11%以上下回った。

「学校の宿題はやりたくなくなる内容だ」の肯定的回答は50.6%で、市や県と比べても14%以上下回った。

「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の質問に対して、「はい」と答えたのは43.5%で、市の30.4%、県の27.9%に比べて、13%以上下回った。

「普段、一日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDなどを見たり、聞いたりしますか(TVゲームは除く)」の質問に対して、一番多かった回答が「4時間以上」の28.2%で、これは、市の14.5%、県の15.3%を大きく上回る結果となった。

家庭学習として与えられた課題以外の学習に取り組んでいる児童が少ない。力のつく自主学習のやり方を共有し、授業の予習・復習にも進んで取り組めるようにする。また、家庭での有意義な過ごし方について、学級活動で話し合ったり、保護者同士が懇談会で情報交換をしたりするなどして、メディアを見る時間を減らし、学習や読書に費やす時間が増えるようにしていきたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを追究する授業づくりの推進	子どもたちにとって高い課題を設定し、グループ活動や学級全体で協働的な話し合いをもつ問題解決的な授業づくりを進めている。	「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」に肯定的に回答した4年生の児童の割合は70%以上、「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的に回答した5年生の児童の割合は80%以上で、市や県の肯定的割合を上回っている。
個に応じた指導と学習内容の定着を図る指導の充実	算数では、単元に応じて、少人数学習、習熟度別学習、TT体制で授業を行っている。 火曜日と金曜日の朝の学習の時間には、担任を持っていない教員も各学年で個別指導を行い、国語と算数の学力向上を図っている。	4、5年生ともに、基本的な知識や技能に関わる力は十分に身に付いているとは言えない。今後も授業における指導体制を単元ごとに検討し、指導内容を工夫していく。また、朝の学習の時間における個別指導を継続していく。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間のめやすや家庭学習の内容を提示している。 自主学習帳の約束として、日付と取り組んだ時間、振り返りを記入し、保護者からサインなどをもらうことを学校で統一している。	4、5年生ともに「家で学校の宿題をしている」「学校の宿題は、自分のためになっている」に肯定的に回答した児童の割合は95%以上だが、家庭学習に取り組む時間は、県や市より短い。自ら考えて取り組む態度に関わる「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は50%未満である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えをもち、表現する力の向上	目的に合った表現方法や表現内容を身に付けさせる場の設定や学習活動の工夫	学習のまとめや振り返りの場面で、キーワードや条件などを示して学習したことを書かせたり、書かせたことを相互に確認し合わせたりすることにより、書く力の向上を図る。